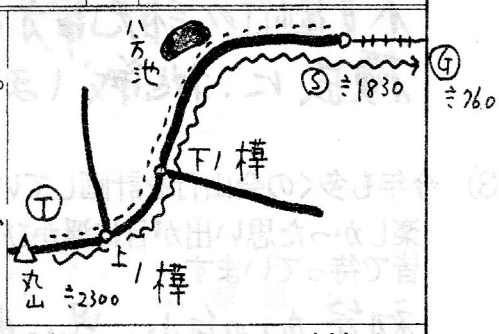
山行報告書

通算山行NO	NO・149S	報告者	加藤秀子
年月日	'99年 4月 8日（木曜日）～	年 4月 9日（金曜日）	
山行名	スキー登山	天候	晴
山名	唐松岳・丸山直下迄		
この山のセールスポイント	**山岳展望欲しい儘の稜線を楽しんだ後はダイナミックに滑る**		
コース及びタイム	4/8御殿場 18:30⇨八方《かく市》 22:10⇨八方ゴンドラ駐車場 23:00（車内泊） /9起床6:00/8:30 ～リフト 終点9:00～丸山手前10:40 ～駐車場12:00 ⇨温泉経由		

標高差	△S八方池山荘～ T丸山下 ≒530 m	体力度	1・2・3・4・5・6
	▼T丸山下 ～ G細野 ≒1540 m	技術度	1・2・3・4・⑤・6
走行距離	下土狩 ～ 細野 ≒250 km	展望度	1・2・3・4・5・⑥

参加者							
SL	後藤 隆徳	52	いつもの風に悩まされた	加藤秀子	50	五竜、鹿島槍が見事
	高岡八千代	61	今日はバテバテだった	奥山美保	28	山スキーは快適！



土、日が雨予報なので金曜日の山行に繰り上げ、木曜夜の出発となる。中央高速は空き空きで予定より早く八方着。それならとCLが新鮮なホタルイカの刺身を食べさせてくれる店が未だ開いているかも知れないと直行する。昨年も通りすがりに見たが遅かったので店は閉まっていた。だが、万歳！今日は《かく市》の灯がついている。暖簾をくぐると同時にCLは、『おじさんホタルイカの刺身はあるかい？』『未だ早くてないんだよ』・・・。八方に来るたび聞かされていたホタルイカの刺身は、とうとう食わず終いの幻で終わった。然し、飄々としたおじさんは、CLが言っていた通りの感じの人で、以前此処で食べたホタルイカの味が忘れられない云々の話で花が咲き、ちょっとばかり杯を傾け時は過ぎる。

翌朝7時。約束の時間に奥山さん到着。風邪をひいて少し体調が悪いが山行に参加するとの事で段取りをして出発。リフト終点からシール登行。今日は風もなく、寒くもなく絶好のスキー日和だ。昨年に比べ雪は少なく、その分斜面が鋭く感じる。陽射しに照らされた雪は更に白く、五竜岳から鹿島槍の堂々とした姿が眼前に、又不帰ノ嶮の猛々しさが素晴らしい。

一汗かく頃高岡が不調を訴え遅れ始めた。後でわかった事だが、原因はスキー靴にあった。歩きのモードにならなくて、滑りのモードの儘歩いていたのだ。此れでは遅れるのも最もだ。奥山は、スキー場に勤めているだけあって板の扱いに慣れていた。山スキーは今日が初めてというが、シール登行も急斜面の登りも心配する事は何もない。

第2ケルンからステップ状に整備された歩道が雪の上からもわかり、それを避けて南斜面の少し下がった所からトラバース。急峻でグズグズになった雪が滑り易い。『アッ！』叫んで高岡が傾いた。山側に転び起き上がる動作をするが、靴の足首が固定されている為、起きようとすると板が斜面から離れ身体がズルッと落ちていく。下は吸い込まれるような谷間だ。急いで高岡の足元に私のスキー板をかけ、足止めをする。そうしてから高岡の身体を起こしたが大事に至らなくて良かった。ヒヤッとした一瞬だったが、高岡もこの事で大分ショックを受けたようだ。稜線に出てからも、いつもの元気は何処へやら。『バテた。バテた』と言っていた。

２ピッチでダケカンバが目立つ地点に到着。風が少し出始めてきた。雪面はガチガチのアイスバーン。目前のドーム状が丸山だ。高岡は此処から引き返すという。先を行く２人はスキー板を外して、どうやら担いで行く様子だ。私は悩んだ。しかし、此の傾斜に此のアイスバーンでは登っても滑り下りるのは無理だと思い、高岡と下る旨ＣＬに伝えようと其処まで登る。が、雪山に慣れない奥山も、此処で下りたいと気弱になっていた。

ＣＬも今日は此処までにしよう・・・と判断をくだす。そうと決まれば下りは快適にビッグターンだ。アイスバーンの雪面から少しづつ腐り始めた雪にかわり、思う存分滑りを楽しむ。アッという間にゲレンデ最上部についてしまった。いつもながらスキーでの下りは早い。ゲレンデの下部は既に雪はなく、それでも雪を探して際まで滑った。充実感で満足した山行の後はやっぱりビールで乾杯！ポカポカと暖かい陽射しのなかで憩いのひとときが最高なのだ。

帰るという奥山と別れ、白馬にある《ふくろうの湯》でたっぷり湯に浸かった後、甲府会員の清水、岩井、奥山母の３人と甲府で合流。ガッチリ交友を温め、帰路に着いた。

備考	１．スキー靴はその後、ＣＬのアドバイスでグリスを塗ったところ問題は解決した。

下の樺を登る奥山美、高岡、加ー